

2020年  
9・10月号

# 赤れんが通信

稚内、礼文島、利尻島への訪問

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp

2020年8月31(月)から9月2日(水)まで、北海道庁国際課のマレイナ・マコヘニー国際交流員が「赤れんが通信」の取材のために宗谷地域を訪問しましたので、その活動について国際交流員のレポートをご紹介します。

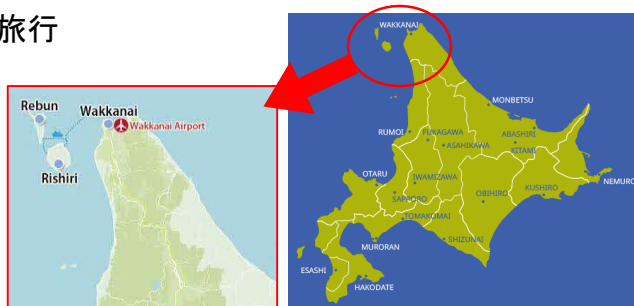
## 稚内、礼文島、利尻島への訪問

道北への出張は、9月上旬の暑さから逃れさせてくれました。読者のみなさんは、わずかな温度差ではさほど違いを感じないと思われるかもしれませんが、私の持っているシロクマの遺伝子は、違いがあると言っています。小さな飛行機を降りた時、涼さが身体を吹き抜け、札幌の蒸し暑い夏から解放されたひと時を楽しみました。

そして、稚内、礼文島と利尻島への3日間の小旅行が始まりました。

### 稚内市周辺

北の更に北へようこそ！稚内市は宗谷総合振興局が位置する都市で、日本最北の宗谷岬があります。ここからロシアを見ることができます！



JR稚内駅：線路は、北海道の最も北に位置するこの駅で終わります。駅を出ると、最近、北海道のあちこちに設置されている、ポケモンがデザインされたマンホールの蓋を見ることができます！



宗谷岬を訪れ、日本最北の場所に立ちました。近くの建物の中には、剥製の動物が展示されています。剥製はあまり好きではありませんが、この二匹の動物たちには、目を引き付けられました！



白い道： 見よ、眼下に広がる、このなだらかな丘と海の素晴らしい景色を。



カーリングに挑戦してみたいですか。それなら、稚内市みどりスポーツパークで体験することができます。この施設には、真新しいカーリングのレーンが4つあります。他にも、剣道、アーチェリー、弓道、柔道などの施設もあります。



猿払村にも足を延ばしました。そこで、牛を見たり、アイスクリームを食べたりすることができます。村のマスコットもマスクを着用。元気を過ごしてね、北海道！

# 礼文島



礼文島には、3,000人が住んでいて、主要産業は漁業と観光です。島には、素晴らしいハイキングスポットがいくつもあります。車で、島のほとんどの場所に行くことができますが、そうでない場所もあります。そして、なんと、そのような場所に人が住んでいます！とてもビックリしましたが、興味もそそられます。

湊かなえの原作で、2012年に制作された映画「北のカナリアたち」の撮影は、この島で行われました。映画で使われた学校のセットを見ることができます。→



←島の先端にある、とある神社は面白いと思いました。一緒にいた人たちに聞いてみましたが、誰も、その神社が誰が何のために建てられたのか知りませんでした。

↓礼文島のマスコット「あつもん」!



↑スコトン岬。礼文島北部に位置し、北へと伸びるこの岬と岬から見える島の景色は大変美しかったです。

# 利尻島

礼文島の南東は利尻島があり、島と同じ名前の山が水平線上にうっすらと見えます。二つの島のうち、利尻島の方が大きく、人口は5,100人強です。島の特産であるウニや昆布が有名ですが、この島の自然や植物も、観客を引きつけています。サイクリングロード(特に自転車用)もあり、ぜひ、自分の自転車で巡ってみたいです。



利尻島では、ウニ採り体験や昆布体験など、様々な「体験」に参加することができます。

北海道利尻高等学校で、国際交流授業に参加していました。姉妹友好をはじめ、アメリカや島の生活、様々な話題について話す機会がありました。とても賢くて元気な生徒たちと交流してうれしかったです。



美しい自然やおいしい海の幸が待っています！

この二つの島には、行くべき場所がまだまだあります！二つの島には見どころがたくさんあるので、いつかハイキングに訪れたいです！マラソン好きの方には、利尻島と礼文島でマラソン大会が毎年開催されています。

島を観光したい方は、稚内から出ているフェリーで島を訪れることができます。料金は手ごろで、乗船時間は数時間です。また、利尻島には、とても小さな飛行機が離発着できる空港もあり、そこから、札幌の丘珠空港(私は札幌に空港があるのを知らなかったのですが)など、新千歳と丘珠空港へ戻ることができます。

今回の出張では、短期間でしたが、おいしい物をたくさん食べ(写真はあまりありませんが、すごかったです)、美しい景色を見て、大好きなフェリーにも乗りました。とても疲れましたが、次の冒険を待ちきれません！



# 北海道JETスポットライト



**北** 海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約200人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！今月、利尻島と礼文島の2人のALTを紹介させていただきます。



## Meet Joe!



**あなたのことを少し教えてください。**

私はフィリピン生まれで、グアムで育ちました。高校生の時、交換留学で日本に来る機会があり、その時にJETプログラムを知りました。その時のお世話係の一人がJETプログラムの参加者だったのです。その後、大学の最終年の時、JETプログラムに関心を持ち、申し込みをしました。

**派遣地域がへき地と知って、どう思いましたか。**

自分は、小さな島のグアム出身なので、問題は全くありませんでした。これまで知っている世界と全く違うところに行きたいと思っていたのと、グアムには季節が一つしかなく、冬の季節は全くありません。私の人生初の冬は、全てが新しいことばかりでした。でも、ここの人はみんなとても優しく、地域の方々がとても歓迎してくださっていると感じています。去年の冬は、新型コロナウイルスで、スキーに行くことができませんでしたが、ぜひ来年行きたいです！

**島に来てからの生活はいかがですか。どこかに旅行に行きましたか？**

新型コロナウイルスの感染が拡大したので、旅行には全く行くことができていません。JETプログラムに参加する前は、東京、小豆島、京都に行きましたが、他にも行ってみたい場所がたくさんあります。島のみなさんはとても親切で、仕事も楽しんでます。以前、課外キャンプで教えていたことがあります。島の子供たちは本当に積極的で、仕事がいやなくなりました。グアムは、日本をはじめ、アジアの様々な国から観光客が訪れます。また、過去に日本に占領されていたので、日本の文化が多く根付いています。ですから、大きな変化やカルチャーショックはあまり感じませんでした。

**島に来てから、苦労したことは何ですか。小さな島に住んでいることが原因で、普通なら簡単に解決できるはずのことが、大事になってしまったということがありますか。**

漢字です(笑)。漢字の意味は分かるのですが、読み方がわからないことが、一番の課題です。生活といえば、狭い空間にまだ慣れていません。これは、島が小さいという意味ではなくて、もっと小さなスケールのことで、例えば、生活スペースの狭さです。海外では、全てのものが、ここより大きく、例えば、私の部屋の玄関は、開けるとすぐにアパートの共有部分です。小さいということは、プライバシーがないということのようです。それから、買物の面で言うと、島に住んでいるので、物をすぐに手に入れるのは難しいのですが、その点については、それほど心配はしていません。時間がかかりますが、いずれは手に入れることがわかっているので。それから、島にファストフードの店はありません。ですから、自炊しなければならず、結果として、健康にはいいことです。でも、時々ファストフードを食べたいと感じる時があります。島のみなさんは作物を育てているので、新鮮な食材がたくさんあります。島の人が、ほうれん草、ブロッコリ、ズッキーニなど、新鮮な野菜やフルーツを分けてくれます。

# Meet Lee!

**あなたのことを少し教えてください。**

私は、アメリカのミシガン州の田舎の出身です。スペリオル湖の近く、木々が豊かな、鹿もたくさん住む場所です。小・中学校では、外国の文化に触れる機会はあまりありませんでした。しかし、中学校から高校にかけて、私は、他の国の文化や歴史に興味を持ち始め、そのうち、アジアの文化や歴史への興味が深まり、最終的に、興味の対象が日本になりました。

**派遣地域がへき地と知って、どう思いましたか。**

今回の日本滞在は、3回目になります。一番初めは、2010年の滋賀県への留学でした。その後、四国の別府市にも留学しました。JETプログラムに申し込む際、赴任地の希望を記載する欄があり、自分はそれまでの留学や旅行で、日本のほとんどの場所を訪れていたため、それを考慮して、希望地を京都、北海道、沖縄の三つにしました。派遣地の知らせをもらった時、北海道や利尻島のことについてあまり知らなかったため、「グーグル先生」に聞いてみました。調べてみると、利尻島はかなりの田舎だと知って驚きましたが、自分の故郷も田舎なので、行ってみようと思いました。実際に来てみると、ここ利尻島と私の故郷は、田舎さ加減は同じようなのですが、インターネット回線はこちらの方が速いです(笑)

**島に来てからの生活はいかがですか。どこかに旅行に行きましたか？**

ここでの生活や生活に適應することは、非常に困難だと感じたことはなかったです。これまでの留学経験のおかげで、日本語がわかりますし、出身が田舎なので、田舎に住むことも問題ありませんでした。厳しい冬や寒さ、田舎暮らし。ここ利尻島と私の故郷はとても似ています。生活習慣への適應という点では、2010年に留学した時につらい思いをしたので、今回は、生活に慣れるのは難しくありませんでした。

**島に来てから、苦勞したことは何ですか。小さな島に住んでいることが原因で、普通なら簡単に解決できるはずのことが、大事になってしまったということがありますか。**

今お話したように、今回は、生活に慣れるのに苦勞はしませんでした。初めて日本に来た時は、全く日本語がわかりませんでした。そのせいで、面白い経験もしました。例えば、コンビニでチョコレートドーナツを買ったはずが、実はあんぱんだったり。でも、そのおかげで、新しい生活や場所に慣れるにはどうすればよいかということ学びました。何も知らなかったため、外の世界から隠れたり、閉じこもったりできなかつたのです。自分の視野、味覚、コミュニケーション能力を広げることを余儀なくされました。言語や経験に限界があるということは、とてもいい経験になると思います。大海原に投げ込まれたら、泳ぐしかありませんからね。